

授業科目

音声学

担当教員名 大石 如香	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	○	○

授業の概要

言語聴覚士は音声言語を扱います。患者の発音の誤りの傾向を知るために、音声表出を記述したり、さまざま音を実際に発音することが必要です。また、患児や患者に対して、構音法を呈示する際、言語聴覚士はそれをわかりやすく説明できる知識を持たなければなりません。本授業では、音声学を初めて学ぶ学生のための「入門編」としての知識を学ぶと同時に、実際の臨床に活かせる基礎となる知識や技術について、受講生にわかりやすく具体的に概説します。

授業の目的

言語聴覚士として必要な音声学の知識や技術を習得する。

学習目標

1. 音声学とはどのような分野かを理解する。
2. 調音の場所や方法について記述する。
3. 第1次、第2次基本母音を理解する。
4. 日本語の分節的側面（母音、子音）について理解する。
5. 日本語の超分節的側面（アクセントなど）について述べる。
6. 実際にIPA表記ができるようになる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	音声と音声学、調音器官の構造と働き	講義	大石 如香
2	単音とその算出、子音の分類方法	講義	大石 如香
3	IPAにおける肺臓気流子音 1	講義	大石 如香
4	IPAにおける肺臓気流子音 2	講義	大石 如香
5	子音におけるさまざまな特徴と、喉頭・硬口蓋気流子音	講義	大石 如香
6	現代共通日本語の単音	講義	大石 如香
7	実際のIPA表記	演習	大石 如香
8	母音の分類方法	講義	大石 如香
9	母音におけるさまざまな特徴	講義	大石 如香
10	日本人の音声学的特徴 1	演習	大石 如香
11	音節とモーラ	講義	大石 如香
12	日本人の音声学的特徴 2	発表	大石 如香
13	日本語の超分節的側面側面	講義	大石 如香
14	音素と音素論	講義	大石 如香
15	まとめ	講義	大石 如香

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	日本語音声学入門【改訂版】	齋藤純男	三省堂	2007年	2,000円+税	
参考書	言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学	編集 今泉 敏	医学書院	2009年	3,800円+税	
その他の資料						

評価方法

成績は原則として定期試験の点数およびグループワークのプレゼンテーション内容をもって評価します。小テストやレポート実施の際に

は評価の対象に加える場合があります。

履修上の留意点

インターネット上のIPAモジュールを参照することを勧めます。

オフィスアワー・連絡先

F309（研究棟3階）

月曜日12～13時

（オフィスアワー以外でも事前にアポイントをとってもらえれば、授業内容の質問等について随時受けつけます）

E-mail: oishi@nuhw.ac.jp